

たまむらぎかいだより



くらしを
支える
まちづくり
補正予算可決

玉村町オープンガーデン



5月11日に老人福祉センターで
行われました

一般質問に
11人が登壇!!



みんなの
広場
P.18

誰でも気軽に始められます♪

「点字ボランティア ひまわり」の皆さん



くらしを支えるまちづくり

くらし・まちづくり、
交通・防災等の
補正予算を可決

町長から一般会計などの繰越計算書2件の報告があり、条例改正、補正予算など、計15議案が上程され、慎重に審議した結果、全て原案のとおり可決しました。また、一般質問は11名の議員が行い、様々な角度から町政全般をたどりました。

くらし・まちづくり

地区の活動に対する助成

●市町村振興協会魅力あるコミュニティ助成事業 200万円

川井地区が行うコミュニティ活動に対し、活動費を助成。(こみステーション・ジャンパー・電源等)

●(二財)自治総合センターコミュニティ助成事業 200万円

板井地区が行うコミュニティ活動に対し、活動費を助成。(テレビ・ワンタッチテント等)

定額減税 不足額を給付

●定額減税に係る不足額給付金事業 7063万円

国が令和6年度に実施した定額減税において支給額に不足が生じた方などに対して、その不足額を給付。

介護に関する入門的研修の実施

●介護に関する入門的研修等支援事業 36万円

県の補助金を活用した、介護に関する入門的研修の実施。

交通・防災

町道212号線と県道綿貫篠塚線の交差点の拡張工事

●道路改良事業 517万円

通行しやすくするため、町道南側を広くする。(土地購入及び物件補償)

防災行政無線システム整備

災害時等に緊急情報を伝えるための、同報系ハイブリット防災行政無線システム整備工事を実施。内容は庁舎内に操作端末やサーバー等を設置し、庁舎屋上に情報発信用のアンテナを設置して情報を発信するもの。

◇契約金額 5231万円(消費税込み)

◇契約者 株式会社大塚電設

◇契約方法 条件付き一般競争入札

施設管理

OA機器の購入

●基幹業務総合情報システム 175万円

人事異動や業務増に伴い、不足しているOA機器を2台購入。

玉村分団詰所建設

再編後の玉村分団詰所等を現在の第



スカイランタンプロジェクトは、とてもすばらしい事業です。この祈りの灯火が平和への願いを象徴し、世界中に広がり戦争のない空をずっと見上げられるようになったらいいなと思います。藤井裕子さん（上之手）



◀玉村町役場 YouTube【戦後80年・玉村町】
戦争の記憶の継承 ～子どもたちへのメッセージ～
（玉村町歴史資料館30周年事業）



玉村町初のふるさと納税制度を活用したガバメントクラウドファンディングに挑戦（スカイランタンプロジェクト）

教育・子育て

戦後80年歴史継承事業

●戦後80年歴史継承事業

107万円

子ども向けの戦争に関するパンフレットや動画作成、スカイランタンの打上。

8分団の敷地に建設し、現在の第8分団詰所の取り壊し工事を実施するもの。

◇契約金額 7293万円（消費税込み）

◇契約者 株式会社徳江工務店

◇契約方法 条件付き一般競争入札

芝根小学校トイレ工事

●芝根小学校工事請負費

107万円

1階多目的トイレの雨漏り対策、コーキング処理等の追加。

その他

玉村町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正（令和7年10月23日）

玉村町特別職報酬等審議会の答申を踏まえ、議員の報酬月額を増額改定。報酬月額の改定額は、議長3万9000円。副議長、委員長及び議員は3万4000円の増額。

これにより議長は32万4000円を36万3000円。副議長は26万6000円を30万円。

委員長は25万4000円を28万8000円。議員は24万2000円を27万6000円に改める。

カーナビ付き公用車分の放送受信料

●放送受信料

87万円

NHKとの受信契約が未契約であるカーナビ付き公用車があることが判明したため、本来の支払うべき受信料を遡って計上。

陳情 慎重審議の結論

地方財政の充実・強化に関する意見書採択についての陳情

陳情者 伊勢崎市中央町 30-4
日本労働組合総連合会 群馬県連合会
伊勢崎地域協議会 議長 宮下 和夫

【陳情内容】

社会保障の充実、防災・減災、脱炭素化、自治体DX推進等、増大する地方公共団体の財政需要を的確に把握し、地方一般財源水準確保より踏みだし、賃上げ基調にも対応する人件費の確保を含めた地方財政の実現を図ることなど、全11項目が記された意見書を国へ提出することを求めるもの。

総務経済常任委員会における審査 趣旨採択とすべきもの

[趣旨採択4名・不採択1名]

本会議における審議 **賛成全員で趣旨採択**

【委員の意見】

趣旨採択

- ・理由はもっともだと思うが、11項目ある中で半分ほどはどうかと思う。全体として納得できるということではないため、趣旨採択としたい。
- ・現在、国の政治状況の変化により地方が声を上げやすくなり、国が動いている最中なので、様子を見たい。趣旨採択としたい。

不採択

- ・町議会として納得できないため、不採択と考える。

令和7年6月定例会

町の課題や今後について、議員が提案も含めて町に考えを聞く「一般質問」。本会議において、白熱した論戦が繰り上げられます。

6月定例会で登壇した11人の議員はどんな視点で質問し、そして町はどう答えたのか。

町の「今とこれから」が見えてきます。

11人の 論戦

鋭く迫る！ 一般質問



皆さんは、どのキーワードに関心がありますか？

くらし

ごみ問題への対応はどうなった？

(月田 P.5)

共生社会の実現に向けた取組 (松本 P.10)

農繁期における啓蒙や看板設置の要望

(三友 P.11)

循環型社会の構築への取組 (羽鳥 P.12)

インフラ

道の駅玉村宿の南側約3.9ヘクタールの整備計画 (笠原 P.9)

役場庁舎増築のスケジュールは (小林 P.14)

クリーンセンターの広域化への進捗状況は (備前島 P.15)

子育て・教育・福祉

「あいさつ・声かけ運動」取組の状況は (笠原 P.9)

校内教育支援センターの活動内容は

(松本 P.10)

インクルーシブ教育 (松本 P.10)

小中学校体育館の冷房の活用 (松本 P.10)

玉村小学校の駐車場問題 (三友 P.11)

町立図書館 (三友 P.11)

防犯・災害

防犯対策緊急支援事業の追加実施を (浅見 P.6)

緊急防犯対策機器設置事業補助金の周知

(堀越 P.8)

緊急防犯対策機器購入費補助金事業再募

集求む

(三友 P.11)

その他

赤茶色の大きな石、歴史的に価値があるのでは (月田 P.5)

「…されど500万」業務委託の見直しを

(新井 P.7)

地域猫の公共性を示し苦情・トラブルの軽減を

(堀越 P.8)

上福島西地区7.4ヘクタール農地の開発推進方策は (羽鳥 P.12)

旅行者による経済効果と地域活性化 (羽鳥 P.12)

緊急経済対策住宅等リフォーム支援事業

(高橋 P.13)

玉村町の観光及び地域振興 (小林 P.14)

テニスコートの改修工事の内容は (備前島 P.15)

※ () 内は質問者と掲載ページ

全文記録(会議録)は8月末に議会ホームページで公開予定です。



玉村町議会会議録



ご み

ごみ問題への 対応は どうなった？

「私の視点」

「古くて新しい問題」ごみ問題。過去に一般質問で取り上げた。また今回住民から相談を受けた。町が主導する立場で取り組みたいとの回答だったが、その後の取組は。

答弁（町長） 実情に即した対応を実施した

問 今年4月、新しく班長になった人から、「ごみステーションのルールが守られず、乱雑で、困っている、何とかならないか」と相談を受けた。町はどのように取り組んできたか。

答（町長）ごみの分別を周知する注意喚起の看板作成や監視カメラ設置など、地域の実情に即した対応を検討し、提案している。

問 ごみステーションの件で問題点が2点ある。①収集業者の問題。ごみ袋をトラックに放り込むだけで下に散らかったごみはそのまま放置している。②ごみステーションに貼ってある看板は古くなり、文字が消えかかっているものが多い。特に、赤字で書いた文字は耐候性が低く、消えているものが非常に多い。町の対応を問う。

答（環境安全課長）収集業者がごみステーションを掃除することは契約にはない。今後の対応は、クリーンセンターに相談する。また消えかかった看板については、要望があれば、衛生支部長を通して配布するようにしている。

赤茶色の大きな石、歴史的に価値があるのでは

問 下茂木地区の滝川の近くに、人の背丈ほどある赤茶色の大きな石がある。前橋市の岩神稲荷神社にある、国指定の天然記念物「岩神の飛び石」に色や模様が似ている。岩神の石は約2万4000年前、旧浅間山の山体崩壊によって岩神の地に運ばれてきたと言われるが、下茂木地区にある大きな赤茶色の石も、同じ時期に玉村町

に運ばれてきたものではないか。調査したらどうか。

答（教育長）「岩神の飛び石」は、当初赤城山の噴火によるものと考えられていたが、近年、大変な時間と労力、費用をかけ、浅間山方面由来の岩石と判明した。玉村町は前橋台地南端にあり、前橋と地形がつながっている、また石の外形が似ている。それだけで、下茂木地区にある石が、「岩神の飛び石」と同じ由来と判断するわけにもいかない。町教育委員会では調査する予定はないが、外部機関からの調査要望があった場合は可能な限り協力したい。



これは何？ 下茂木地区の滝川の近くにある赤茶色の大きな石

こんな質問もしています

- ・犬猫避妊手術助成事業について
- ・フォトコンテストの活用について





防 犯 防犯対策緊急 支援事業の 追加実施を

「私の視点」

住民の防犯意識は高く、町内で空き巣や車上荒らしなども増えている中、追加補正として、再度住民に周知を徹底した上で実施していくべきだ。

答弁（町長） 活用できる交付金があれば事業を実施したい

問 防犯対策緊急支援事業は、補助金800万円
で令和7年4月1日以降に防犯対策機器を購入・
設置した方を対象に費用の一部または全額（上
限2万円）を400名分補助する事業であるが、
申請開始から約2週間程度で予定数を上回り、
事業終了となった。住民からは、広報にも載せ
ず、「周知の方法がおかしい」、「不公平なやり方
だ」、「知った人だけが得をした」などと不満の
声が多く聞こえてきている。住民の防犯意識は
高く、町内で空き巣や車上荒らしなども増えて
いる中、追加補正として、再度住民に周知を徹
底した上で実施していく考えはないか。

答（町長） 今回のこの事業は、地方創生臨時交
付金の物価高騰対策メニューに基づいて、国の
交付金を活用して実施した事業となる。今後も
活用できる交付金がある場合には、同様の事業
を実施したいと考えているが、現時点では、環
境安全課の事業で活用できる交付金がないので、
補正予算を計上する予定はない。今後、経済産
業課で実施予定のリフォーム支援事業補助金に
おいて、防犯・防災設備工事も補助対象として
いるので、そちらの活用を検討していただきたい。
また、議員がご指摘の周知方法については、今
年1月に伊勢崎市で緊縛強盗事件が発生し、玉
村町でも特殊詐欺事件が複数件発生してしまっ
た状況において、可能な限り早急に防犯対策
を実施する必要があると考え、メルたまや町公
式LINEといった速達性の高い方法で周知を行
うことを選択した。今回は即効性を考え事業を

実施したが、今後、同様の事業を行う場合には、
事前に十分な周知を図った上で、事業を実施し
ていきたいと考えている。



追加実施が待たれる防犯対策緊急支援事業
（防犯カメラ、人感センサーライト）

こんな質問もしています

- ・町営住宅の現状と今後の課題について
- ・消防団の分団詰所跡地の有効利用について



情報

「…されど500万」 業務委託の 見直しを

「私の視点」

「ラヂオななみ」の聴取率調査。ほぼ毎日1%、週1～数回3%、月1～数回4%、年1～数回9%、聴いていない83%である。予算審議の場で、堂々と反対すべきだった。

答弁（町長） 様々な意見があることは承知している

問 行政情報発信事業「ラヂオななみ」は、長期にわたり低聴取率が続いている。費用対効果を考え、業務委託の見直しについて、今まで、何回も繰り返し質問をしている。同僚議員をはじめ、私の周辺の町民のほとんどが、毎年約500万円の予算について、費用対効果に疑問を呈している。開局以来の業務委託料は総額幾らになるのか。限られた財源の中、他に緊急かつ有効な用途があると思うがどうか。

答（町長）開局以来の業務委託料の総額は、約9263万円である。費用対効果等について、確かに毎年約500万円程度の支出は、大きなものと認識しているが、貴重な情報発信手段の一つである。令和5年度の町民満足度調査では、情報を得ている媒体として3%の方が利用しているという結果もあり、一定数の町民の方が利用されているのも事実である。委託料を縮減したとはいえ、約450万円を使用するのが適切なかどうか、様々な意見があることは承知している。様々なツールで情報を受け取る時代であり、ラジオ自体あまり聞かない現状があるのも事実である。時代に合わせた情報発信が必要であると思う。「ラヂオななみ」の認知率の向上を図っていきたい。

問 聴取率の調査では、「聞いたことがある」が平成31年33.4%から令和5年17.4%に半減している。「ラヂオななみの存在さえ知らない、聞いたことがない」が83%という結果を踏まえても、費用対効果に問題ないと言えるのか。

2年前には、町の監査委員の指摘もあった。限りある財源である。私は「たかが500万」ではなく「されど500万」という思いだ。町長、これから、どのように頑張ってくれるのか。

答（町長）社会のベースのところで通用する情報発信ツールとして、議員の指摘を含めて、イベント情報や魅力発信情報等を取り込み、聞いてもらえるような環境を強めていく。



情報発信機能は充実している。スマホ・パソコン・ラジオ、広報たまむら等、うまく活用してほしい。

こんな質問もしています

- ・「新たな災害情報一斉伝達・収集システムの導入」について
- ・玉村町の食育に関する取組について
- ・広域幹線道路（国道354号バイパス）沿線の河津桜の有効活用について



環 境

地域猫の公共性を示し苦情・トラブルの軽減を

「私の視点」

野良猫問題を愛護の視点だけでなく「地域の課題」と捉え直し、TNR*で個体数を減らし、一代限りの命として、地域全体の共生を目指す地域猫活動を進められないか。

答弁（環境安全課長）住民に喜んでもらえる形になるよう地域猫活動を周知したい

問 野良猫問題への対応は。

答（町長）野良猫の繁殖力は高く、環境や猫自身のことを考えても対応が必要。約4年前に無料不妊手術チケット導入を検討したが、獣医師会との関係でなかなか進まなかった。今後体制を整えつつ進めたい。

問 住民からの苦情の内容と、町の対応は。

答（環境安全課長）ふん害やごみステーション荒らしが主。飼い主にマナーの啓発を行っている。

問 空腹な野良猫が原因ではないか。練馬区では環境省指針に基づき、給餌や排泄物処理のルールを広報紙等で周知し、無責任な餌やりが減少した。町でも地域猫活動の意義を周知する考えはないか。

答（環境安全課長）マナー啓発の看板設置や、広報紙・電子媒体で地域猫活動の啓発を進める。

問 町で地域猫活動についての勉強会を開催し、

ボランティア育成を進める考えはあるか。

答（環境安全課長）他自治体の勉強会への参加を検討。ボランティア団体が町内で勉強会を開催する場合には、住民に周知をする。

問 TNRやトイレ設置など正しい管理をしているボランティアも、住民の誤解により困っている。行政は正しく活動するボランティアの公共性を示し、住民理解を深める考えはないか。

答（環境安全課長）ボランティア活動を住民に理解してもらい、喜ばれる形を目指す。自治体として発信に努める。

* TNR：野良猫を捕獲し、避妊・去勢手術を行い、元の場所に戻すこと。



公益財団
法人どう
ぶつ基金
HP

緊急防犯対策機器設置事業補助金の周知

問 緊急防犯対策機器設置事業補助金の案内がデジタル媒体のみによる周知不足や、補助金早期終了の不満。また凶悪事件への不安もある。町独自の補助金はないか。

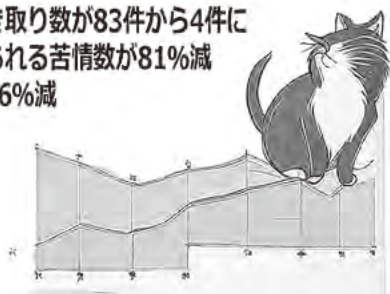
答（環境安全課長）伊勢崎の強盗事件を受け、デジタル媒体で迅速に周知した。今後は紙媒体も活用する。補助金については、今年度は、活用できる交付金があれば事業を実施したい。不審者には警察と連携しパトロール強化を依頼する。

こんな質問もしています

・ 5歳児検診の導入における課題と対応について

✿ 地域猫活動で猫たちと地域が変わった ✿
～約10年の成果～（練馬区）

- ①センター引き取り数が83件から4件に
- ②行政に寄せられる苦情数が81%減
- ③ロードキル76%減
（練馬区）



様々な立場の方がいる中でも、野良猫を巡ってのトラブルのない地域社会が実現している。



挨拶

「あいさつ・声かけ運動」取組の状況は

「私の視点」

「おはよう」は、朝の合言葉。恥ずかしがらずに呼びかければ、一日がすばらしく良い日に思える。朝の挨拶は、気持ちよく発信するようにお願いしたい。

答弁（教育長） 各方面と連携し、引き続き啓発に取り組みたい

問 町は、「あいさつ・声かけ運動」を提唱しているが、実際はどのくらい実施されているのか。朝の挨拶は、気持ちよく発信するようにお願いしたいと考えるがどうか。

答（教育長）朝の挨拶は単なる形式的な言葉の発露ではなく、周囲との人間関係づくりや、前向きな一日のスタートのためにも、とても大切なものであると考える。

玉村町では、元気に挨拶することのすばらしさや気持ちよさを、子供たちのみならず、多くの町民の皆様に感じていただけるよう、「あいさつ・声かけ運動」の取組を進めている。具体的な取組として、あいさつ・声かけポスターの募集や掲示、各小・中学校においても、児童会や生徒会が中心となり、様々な「あいさつ運動」

が行われている。挨拶と笑顔であふれる玉村町となるよう、各方面と連携しながら、引き続き啓発に取り組んでいきたい。

道の駅玉村宿の南側約3.9ヘクタールの整備計画

問 既に関越自動車道の西側では、高崎市が大規模集客施設の構想を打ち出しているが、道の駅玉村宿の南側約3.9ヘクタールの整備計画について、町はどのようなことを考えているのか。

答（町長）都市公園法におけるPark－PFI制度を活用した観光交流拠点公園の整備可能性を検討してきたが、高崎市の大規模集客施設の構想が打ち出されたことにより、施設の差別化を図る必要があることや、限られた予算の中で、最大限の効果を発揮できるような計画にする必要がある。現在、高崎市の動向を注視しながら、参画を希望する事業者とも情報交換を行い、Park－PFI制度以外の手法による整備の可能性を含めた再検討を行っている状況である。今後、再検討を行っていく中で、必要に応じて様々な意見を取り入れながら進めていきたいと考えている。

こんな質問もしています

・国道354号バイパスと藤岡大胡線との交差点は立体化にはならないのか



町は「あいさつ・声かけ運動」を推進。前向きな一日のスタートのためにも、気持ちよく発信したい。

町役場入り口



教育 校内教育支援 センターの 活動内容は

「私の視点」

校内教育支援センターは、単に登校を促す指導の場ではなく、不登校傾向のある児童生徒が安心していられる場を提供するもので、家庭と学校を結ぶかけ橋となるべきである。

答弁（教育長） インクルーシブな学びへの橋渡しが可能となる

問 現在対象となっている児童・生徒の人数及び対応職員数と勤務時間等の概要は。

答（教育長）対象児童生徒は、小学校5校で15人、中学校2校で13人になる。ただし、それ以外にも、必要に応じて一時的な支援を受けている児童生徒も数名いる。勤務状況は、小学校では教職経験を有した支援員1名が週に3日、1日5時間勤務をしている。また、中学校では、現在運用中の教育相談室の機能を拡充する形で、支援員1名が、両校兼務で週2日ずつ、計4日5時間勤務に当たっている。

問 利用場所、設備も含めた必要な環境は。

答（教育長）リラックスできるようなソファを置いたり、床にカーペットを敷いたりして、それぞれの学校で、児童生徒が安心して過ごせるような環境づくりを進めている。

インクルーシブ教育*

問 インクルーシブ教育の導入のための準備は。

答（教育長）旧来のような一斉授業中心の学習だけでは全ての子供に対応することは不可能である。各学校では、「個別最適な学び」や「自由進度学習」に関する授業実践や研修が進められており、子供一人一人の力や得意な学び方、どのように学習を進めたいかという思いや願いを最大限に生かした授業の在り方を、県教育委員会の助言も受けながら進めている。

*インクルーシブ教育：障害や病気の有無、国籍や人種、宗教、性別といった違いを超えて、全ての子供たちが同じ環境で一緒に学ぶ教育

小中学校体育館の冷房の活用

問 社会体育（学校開放事業）において、冷房施設を利用することはできないか。

答（教育長）電気使用量の増大等の影響から、現在は利用を許可していないが、地球温暖化の影響によるさらなる環境悪化の状況も考慮しながら、受益者負担の可否も含めて、今後も慎重に検討を行っていきたいと考えている。

共生社会の実現に向けた取組

問 外国籍住民専用の相談窓口の設置は考えないのか。

答（町長）相談窓口の設置については、相応の専門的な知識や経験を持ったスタッフとその費用の確保が難しく、また、今の庁舎では、設置場所の確保も厳しい状況にある。



インクルーシブな環境での交流の様子



防犯

緊急防犯対策機器購入費補助金事業再募集求む

「私の視点」

この補助金は、14日間で終了となり、広報の掲載もなかったため、周知が不足していた。多数の希望者が申請できず、不公平感が強かった。再度事業をするべきだ。

答弁（町長） 活用できる交付金があれば進めていきたい

問 緊急防犯対策機器購入費補助金事業の再募集の考えはあるか。

答（町長）今回は広報での周知ができなかった。不公平感解消のためにも、周知方法を検討し、活用できる交付金があれば新たな事業を進めていきたい。

農繁期における啓蒙や看板設置の要望

問 農繁期における農道への看板設置や、トラブルが起きないように、お互いの立場への啓蒙活動が必要だと思うがどうか。

答（経済産業課長）トラブルが起これば、今後は、HPなどを通じて、通行者、農業者双方へ配慮のお願いを啓発していく。

また、事故抑止対策も含め、関係機関と協議する中で、看板の設置が必要となれば、双方に配慮した看板を検討していく。

玉村小学校の駐車場問題

問 玉村小学校の駐車場が、放課後児童クラブ、通級教室等のお迎えの車で、登下校時には満杯状態である。

今年度から使用しなくなったプールを解体し、駐車場にできないか伺う。また、北門前の道路は子供たちと車が混在して危ない交差点になっている。解消策はあるか。

答（教育長）プールの解体には多額の予算が必要であるため、すぐにはできない。別の方法で駐車場問題、そして子供たちの安全対策も考えていく。

町立図書館

問 町立図書館は、令和5年度の貸出率が県内4位というすばらしい成績であり、たくさんの事業を行っている。図書館の今後を問う。

答（教育長）図書館の役割は、「貸出型図書館」から、より多くの学びのある「滞在型図書館」へ変わりつつある。そこで特集による本以外の物の展示、文化財係や文化振興財団のイベントとコラボした特集や講座、学習室の利活用にも力を入れている。視覚障害の方のための点字付き絵本や隆起印刷の本なども展示してさらなる工夫をしていく。移動図書館については、現段階では子育て支援センターへの訪問を計画しているが、今後の拡充も検討したい。



図書館に新設された「りんごの棚」コーナー。その他、外国人向けの本棚も設置。

こんな質問もしています

・飲酒運転禁止の啓蒙活動等について





農 業

上福島西地区7.4 ヘクタール農地の 開発推進方策は

「私の視点」

平成4年の開発着手以来、企業からの何度かの開発アプローチがあったが、いずれも実現せず、未開発となっている。県企業局による開発促進を働きかけるべきである。

答弁（町長） 県開発審査会提案基準による民間開発に期待

問 上福島地区の土地活用として棚上げになっている7.4ヘクタールの開発促進について、これまでに行われた農振除外等の変遷があるが、現在、この広大な土地の活用が進んでいない要因をどのように町は認識しているか。提案として、群馬県企業局に開発要請を行うなど、町として主体的な取組を開始する考えはあるか。

答（町長） この農地の開発は「物流業務の総合化及び効率化の促進に関する法律」による施設が開発許可対象となるが、進出意向企業の開発内容が、県の開発審査会提案基準の一つである「特定流通業務施設」の開発基準に満たないことが要因ではないかと考える。町としては、都市計画マスタープランの実現、雇用機会の確保、財政の健全化、ひいては地域振興の活性化となるよう今後も開発促進について支援していきたいと考えている。群馬県企業局が開発を行う場合も、まずは市街化区域への編入が必要となる。



上陽上福島西地区の多くの地権者の思いが募る開発予定地

循環型社会の構築への取組

問 NHKのニュースでイギリスのベンチャー企業が下水汚泥から高効率でSAF（持続可能な航空燃料）に転用リサイクルする技術を生み出した事例が取り上げられた。玉村町にある県央水質浄化センターの汚泥について、例えば玉村町で、肥料として売り出すなどの資源としての活用を検討できないか。循環型社会の構築という視点から、県と連携して汚泥の資源活用に取り組む考えはあるか。

答（町長） 群馬県、町、調査研究委員会の三者により、汚泥の活用の可能性を含め、「資源を活用した地域づくり」として、玉村町の新たな魅力をつくる水質浄化センターの実現に向けた検討を進めている。

旅行者による経済効果と地域活性化

問 玉村町として道の駅玉村宿と玉村八幡宮への観光客誘致策をどのように考えているか。具体的に、玉村八幡宮近傍の再開発による食べ歩き可能な環境整備と日光例幣使道の街並み整備を行う考えはあるか。

答（町長） 玉村八幡宮近傍や日光例幣使道には町重要文化財や重要文化財の候補になりうるような歴史資産もあるが、そういった歴史資産を活用する国の補助メニューもあるが、町も多額の費用を負担しなければならないため、まずは、誘客やPRにつながるソフト対策から検討を行いたい。



補助

緊急経済対策住宅等リフォーム支援事業

「私の視点」

リフォーム支援事業は、物価高騰対策に対する支援として町民にとって大変有効な補助事業である。十分な周知を図った上で、事業を実施していただきたい。

答弁（町長） 地域経済の活性化を促進し、町民の生活環境の向上を図る

問 緊急経済対策住宅等リフォーム支援事業の補助金の内容は。

答（町長） この補助金は、物価高騰対策に対する国の「重点支援地方交付金」を活用して、住宅関連産業を中心とした地域経済の活性化を促進するため、町内の施工業者によって住宅等の改築等工事を行う者に対し、予算の範囲内において経費の一部を補助金として交付するとともに、町民の生活環境の向上を図ることを目的としている。

補助対象者は、町内の住民基本台帳に登録され、または外国人登録原票に登録されている者で、また、店舗等の場合については、町内に店舗等がある個人・法人となる。

補助額は、補助対象工事に係る金額の100分の20に相当する額とし、その額が10万円を超える場合は上限10万円となる。

問 令和7年3月に一般質問した「五料・飯倉地区の田の水利改善」のその後の進捗状況は。

答（町長） 「五料・飯倉地区農地利用活性化基本構想」に基づき、新たな農地の有効活用に向けた取組を進めている。田んぼに対する水利改善は町としても大変重要であると認識しているが、本地区については、一団の農地であることや、県道に近接していることによる交通アクセスの優位性があり、農業先進地区として大変ポテンシャルが高い場所であるので、農業系企業誘致の可能性も含め、今までにない新しい農地利用の形態を模索している。企業参入の検証に必要

となる本地域の特性や諸条件、支援メニューなどの情報を集約した「農業系企業誘致ガイドライン」を本年度中に作成し、効率の高い情報コンテンツの構築を進めていく。また、群馬県が実施する「農業版企業誘致デジタルパンフレット」事業の県内モデル自治体に立候補し、インターネット上で農地の状況を見ることができる、デジタルパンフレットの公表を群馬県とともに目指して、本地区に係る情報リーチ度*を高める。

*情報リーチ度：特定の情報がどれだけの人数に届いたかを示す指標

こんな質問もしています

- ・下水道事業について
- ・小中学校の現状について



校内教育支援センター。子供たちの実態に応じた積極的な活用が期待される。



庁舎

役場庁舎増築のスケジュールは

「私の視点」

町の業務は多様化し、職員の業務量も増え、庁舎も手狭になってきている。住民サービスを行っていく上で庁舎整備をしていくことこそ良いサービスが提供できる。

答弁（総務課長） 来年度に設計、その翌年に建設に着手したい

問 現在の庁舎内では手狭となっている状況を踏まえ、建物整備をなぜ進めないのか。現在の状況で職員が働きやすい環境と言えるのか。

答（町長）来庁者の待合スペースの狭隘化^{きょうあいか}、会議室や相談室のスペース不足の解消と、職員の働きやすい環境の構築等を目的に、DX化の推進と合わせ、役場庁舎の増築に向けて、今年度、基本方針をまとめる予定である。

問 現在分かっている範囲での増築予定は。

答（総務課長）素案の素案のたたき台だが、庁舎北側に増築予定で、最低でも2階、3階までできればと思っているのでこれから検討していく。

問 1階ロビーも狭いので、屋根のある部分まで広げることにについて、予定はないのか。

答（総務課長）現状では考えていなかったが、実際増築可能かも含めて検討材料とする。

問 建設スケジュール予定は。

答（総務課長）今年度中に方針を決定し、来年度に設計ができて、その翌年に増築に取りかかれればと思っている。

問 役場職員の業務量の統一化が図られておらず、専門スタッフなどの一部の人に負担がかかっている状況はないのか。

答（町長）近年、災害の頻発化や人口減少対策のほか、国の制度改正への対応、さらには社会ニーズの多様化に伴い、職員の担う業務量が増加しているが、統一化することは困難である。専門スタッフに限らず、一部の人に過度な負担

がかかってしまう状況は、克服すべき重要な要素であり、限られた人員や予算の中で、質の高い行政サービスを提供するには、常に意識して取り組んでいかなければならない重要な課題であると認識している。

玉村町の観光及び地域振興

問 観光行政とは何だと考えているのか。

答（経済産業課長）私的見解も含めて、誘客することによって地元に経済効果をもたらすとともに、地元のPRにつながり、地域振興に直結する事業と考える。



役場は町民が立ち寄りやすい場所。職員が働きやすい場所でないといけない。



ごみ

グリーンセンター の広域化への 進捗状況は

「私の視点」

少子化が進みごみの焼却が減ってはいても、グリーンセンターは35年間稼働してきた。今後は広域的な焼却施設の建設が求められているが、まだまだ道のりは長い。

答弁（町長） 建設まで早くても10年以上かかる見通し

問 町の焼却施設は平成2年に竣工し、その後改良を加え継続運転してきた。現在は年に1億円を超える整備工事費がかかっている。町単独で維持することが困難になり、国でも焼却施設の統合を推進している。広域化への見通しはどうなっているのか。

答（町長） 令和5年11月に「前橋・桐生・伊勢崎・みどり・玉村一般廃棄物処理広域化協議会」が設立され、広域化処理に向けて協議を進めている。

協議会では、対象地域、整備目標年次、施設の種類、規模及び内容など、広域化処理の基本方針を協議・決定することになっており、これまで協議会を5回開催している。広域化での新しい焼却施設は、4市1町の人口規模や対象地域を考慮し、建設まで早くても10年以上かかる見通しだ。



ごみのリサイクルや減量化を心がけ、老朽化したごみ焼却施設の負担を減らそう。

なお、令和9年度以降の町グリーンセンターの延命化については、今後さらに多額の整備費がかかることから、焼却の委託も含め検討していく。

テニスコートの改修工事の内容は

問 総合運動公園にあるテニスコートの改修工事はどこをどのように改修し、時期はいつになるのか。

答（教育長） オムニコートに改修してから12年目に入った。平日・休日問わず多くのプレーヤーがテニスを楽しんでいて、水はけのよさや表面の砂の混ざり具合など、とても使いやすいとの評判だ。ただ、照明ポールは、プレーに支障を来す位置にあるため改善の必要性があり、トイレの老朽化もある。防風ネットは、今年度中に全面交換する予定でいる。

しかしながら、今年度に総合運動公園管理棟の設計、来年度には改修工事を控えており、B&G海洋センターの大規模修繕も同時期に行うことから、テニスコートの大幅な改修は、それらが完了した後の実施になる。

体育施設の維持管理には大きな財政負担が伴うためご理解いただきたい。

総務 経済 常任委員会

住民参加と協働によるまちづくりをサポート

玉村町住民活動サポートセンターの活動

委員長 小林一幸 副委員長 松本幸喜 委員 笠原則孝・三友美恵子・高橋茂樹・新井賢次



玉村町住民活動サポートセンター

地域課題に挑むまちづくり

●設立経緯

平成19年4月玉村町自治基本条例が施行された。住民自治の実現のために町政への住民参加と協

働によるまちづくりを目的として、平成22年（2010）5月に「玉村町住民活動サポートセンター」が開設された。

設立当初は公設公営でスタートしたが、平成25年（2013）に公設民営化された。

令和7年5月末現在の団体登録数は104団体、個人登録が36人で、住民・NPO・行政、企業などのまちづくり活動に対して、協働に基づいた支援・提案・マッチング等を行っている。

●主要事業

登録団体等代表者会議、交流会、活動紹介イベント、会員募集イベント、視察研修などの主催事業のほか、町委託事業、自主事業の支援、登録団体の協働事業のサポートや、イベント企画立案、準備、実施の支援、企業の社会貢献活動の手法・相談、連携団体とのマッチングを行っている。

町企画課からは、ばる運営のほ

か、ふるハートホールの受付管理業務、経済産業課からは、低速電動バスによる道の駅玉村宿周辺の運行をはじめ、町イベントや町めぐるの依頼運行を行っている。

●公設公営から公設民営へ

公営から民営になったことで、安定した長期事業の実施やスピード感を持った対応、幅広いサポート等のメリットがある一方、限られた委託料の中で、法人業務のほか、各種事業を行わなければならないこと等のデメリットも挙げられる。

●現状の課題と今後

住民の自治意識や地域の連帯感が希薄化する中、会員数の減少や、行事やイベントへの参加者の固定化、新規加入者数の低迷や会員の高齢化、役員のなり手不足、そのため地域資源の管理や地域の文化の継承等の保持が難しくなるといった様々な現状に直面している。

今後は、住民との協働を中心として担う「玉村町住民活動サ

ポートセンター」を通して、みんなが主役となって取り組んでいけるような団体運営と、行政との連携を図りながら、人と人との輪が広がり、地域の様々な活動に参加するきっかけにもつなげていくよう、住民との協働のまちづくりの推進に努めていきたいとのことである。

町が果たすべき役割

【点】 スタッフも少ない中、「ばる」が幅広い活動や登録

団体の支援など住民活動を最前線で支えていることに対して、敬意と感謝を述べるとともに、これらのセンター運営を行っていく上では、ボランティアの延長線ではなく、センターに対する町の支援体制を充実させながら、地域づくりへの取組として、今後も引き続き持続可能な活動が展開できるよう、町としてさらなる連携協力を図っていく必要がある。

研究テーマ：住民活動サポートセンターばると行政の役割

ばるの皆さんと活発な意見交換を行いました。

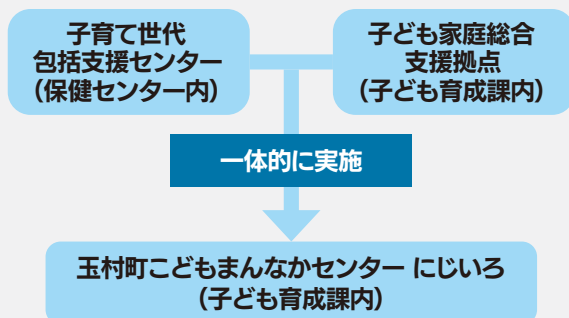


研究テーマ：令和6年4月に発足した『玉村町こどもまんなかセンターにじいろ』の活動について

民生
文教
常任委員会

役場庁舎内の相談室

◆こども家庭センターイメージ図



◆令和6年度こどもまんなかセンターにじいろ相談件数

届出	妊娠届	出生届	転入	(内妊婦)		相談 種別	子育て	妊娠	発達			
	215	182	48	20								
相談 方法	来所	訪問	電話	他(園訪問等)						357	26	193
	209	101	531	138								
相談 区分	新規		継続							不登校	いじめ	貧困
	216		763			88	6	86				
相談数	計								虐待	YC※	他	
	979					64	54	105				
対象児 年齢	乳児	幼児	小学生	中学生	他				R6年度 助産師 相談	実人数	延人数	
相談者 続柄	98	258	303	231	89							
	母	父	本人	支援者	他							
	475	82	66	324	32		64	309				

※ YC：ヤングケアラー

●新組織のあらまし

―根拠・特徴・現状等―

『玉村町こどもまんなかセンターにじいろ』は、国の制度の「こども家庭センター」になる。今まで別々の部署で対応してきた「妊婦や産婦を主な対象とした母子保健に関する相談」と「子育てや家族関係の悩み、児童虐待防止などの児童福祉に関する相談」を一体的に行う事業だが、玉村町の特徴として「子どもの発達に関する相談」も併せて実施している。

にじいろがスタートしてから1年が経過し、非常に多くの相談を受けている。家庭からの相談への対応だけでなく、保育所・幼稚園・

学校・児童相談所などの子育てに関係する機関との連携強化も実現できている。

●職員体制とにじいろの由来

職員はセンター長1名、保健師5名、公認心理士（業務委託）1名、事務員1名。

玉村町には以前から「にじいろファイル」という相談支援ファイルがある。発達面で支援が必要だった

かもしれない子どもへの支援を切れ目なく継続できるよう成長の記録をつづっていくファイルである。この名称には「子どもたちは、これからどんな色にもなっていける可能性を秘めているんだよ」、「にじいろに輝く未来があるんだよ」という思いが込められている。『玉村町こどもまんなかセンターにじいろ』は、その思いを受け継いで全ての家庭にきれいな虹がかつて、笑顔あふれる未来を実現できるように、架け橋となることを目指している。

相談を受けやすいハード面の環境整備を

今回の調査で委員からは、相談の種類や件数について、専門的見地から相談に乗れる職員配置の充実及び個人のプライバシーに、より配慮した執務環境

充実へ向けた取組への意見や、県内他市町村のこども家庭センターの設置状況と比較して、玉村町の取組姿勢などの質問があった。今後、特に『玉村町こどもまんなかセンターにじいろ』を広く町民に知ってもらう宣伝周知と、相談を受けやすい相談室などのハード面の環境整備を強く望むほか、こども育成支援関係団体等との横の連携が、より図られるようにしていくことを期待する。

委員長 羽鳥光博 副委員長 堀越真由子 委員 月田均・備前島久仁子・浅見武志
重要性が増す母子保健と児童福祉の相談に
ワンストップで応えるこども家庭センター玉村町 HP
玉村町こどもまんなか
センターにじいろ

こちり編集室

From EDITOR

コメ騒動を乗り越えて

5月11日にたまの誕生日を祝うイベントが、盛大に行われました。コロナ感染症も収まり、やっと以前のような日常を取り戻すことができたと思ったのもつかの間、私たちの生活は令和のコメ騒動に翻弄されています。私たちの日常は次から次へと押し寄せる社会の変化と無縁ではないようです。「以前のように…」と考えがちですが、今後の変化を見据えた、新たな町づくりが求められています。

さて、6月議会も全議員が議場に立ち、それぞれの視点から一般質問を行いました。玉村町の「いま」を伝えるこの冊子を、より多くの町民の皆様にご覧いただき、この町の行く末を共に考えていただければ幸いです。（松本幸喜）

議会広報特別委員会

委員長 松本幸喜

副委員長 小林一幸

委員 羽鳥光博・堀越真由子

月田 均・新井賢次

発行責任者（議長）石内國雄



ラヂオななみ 玉村町議会



高齢者や視覚の弱い方にも配慮したユニバーサルデザインフォントを使用しています

ダレデモ傍聴

次の9月定例会は

2025

9.1^月 → 16^火

本会議・委員会はだれでも傍聴できます。詳しい日程は8月末に議会ホームページでお知らせします。

たまむら議会川柳

（詠み人 みつちゃん）

夏空に
願いを込めた
月明かり



voice 67

議員記者がゆく！

「聴こう・語ろう」

みんなの
広場

点字ボランティア
「ひまわり」

【取材：小林一幸委員】

点字ボランティア ひまわり

設立年月日：平成9年1月

活動時間：毎月第2・第4水曜日
13:30～16:00

活動場所：まちなか交流館1階
玉村町社会福祉協議会
（相談室）

会 員 数：12名

活動内容：各種点訳
・カレンダー作り
・広報たまむら
・新聞記事
点訳指導

活動を続けてよかったこと

- ほとんどの会員が20年以上継続して活動しています。
- 現在、施設に入所している人も毎月施設で点訳作業をしてくれています。
- 正しく点訳するために言葉に対して敏感になり、こだわりが生まれたことです。
- 視覚障害者だけでなくほかの障害者のことも考えるようになりました。
- 最近では県立女子大学生3名が継続して参加してくれています。
- 小学校へ行って点字ボランティアをできたことです。
- 自宅で点訳もできます。

活動を続ける上で大変なこと

- やりがいはありますが、仕事をしながら活動していたときは大変でした。今は退職して皆さんと楽しく活動しています。
- 高齢化による会員数の減少です。

これからの活動への思い

- 長年継続して活動しているので多くの人に点訳を知ってもらい、参加してほしいです。
- 特に子供たちに点訳を含めてボランティア活動に関心を持ってもらいたいです。「障害に対して、人にやさしい人になってほしい」という思いで活動しています。



点訳は視覚に障害のある人々に「文字の世界」を届ける架け橋になっています



読むことの自由を多くの人に届けています

静かで力強いボランティア活動です



初心者大歓迎。
誰でもできます！
道具は全て用意して
ありますので
手ぶらでOKです！
気軽に見学に
来てください♪

会員募集

連絡先：

玉村町社会福祉協議会
玉村町ボランティアセンター
TEL：0270-65-8864